

## 平成 26 年度 第 1 回北杜市郷土資料館運運営協議会

日 時 平成 26 年 6 月 4 日（水）午後 1 時 30 分～午後 2 時 50 分

場 所 北杜市郷土資料館情報室

出席委員 小尾好男・篠原旭・柴山裕子・仲沢市夫・手塚和義・仲山甲一・  
小池勝・小林秀雄・水原康道・白倉一由・八巻與志夫（11 名）

欠席委員 花輪定徳・溝口透（2 名）

事務局 浅川一彦次長・有泉賢一課長・村松佳幸リーダー  
堀内佳織・輿水信寛・植松正江

北杜市審議会等の会議の公開に関する要綱に基づき公開とする。

傍聴人 0 / 10 人

### 1. 開会

有泉課長から開会を告げる。

### 2. 会長あいさつ

仲山甲一会長から、あいさつを述べる。

### 3. 会議録署名委員指名

仲山甲一会長から、仲沢市夫委員並びに小池勝委員の指名を行う。

### 4. 前回会議録の承認

事務局から前回会議録について説明を行い、承認を得る。

### 5. 審議会の公開について

傍聴人がいないことを確認し、議題に入る。

### 6. 議題

#### （1）平成 25 年度郷土資料館事業について

事務局：平成 25 年度郷土資料館事業について、資料により説明を行う。

議 長：質疑または意見を求める。

委 員：現在の資料館の展示には、文学・絵画という大切な要素が欠けている。

北杜市は文学が盛んな土地であり、絵画においても優秀な人物を輩出している。

町村誌の記述が専門的で充実しており、その中でも『須玉町史』はもっとも新しく、内容も充実しているので、参考にすべきである。旧高根郷土資料館では、文学や絵画を丁寧に取り上げていた。そのときに収集した資料は、大切に保管してほしい。

事務局：参考にすべき意見であり、資料の確認と、展示への反映は今後の課題。『須玉町史』が充実した資料であることは承知している。

郷土資料館の常設展示は、合併前からの状態を継続しており、御指摘のとおり文学と絵画は欠けている。常設展の変更反映していきたい。

## (2) 平成 26 年度資料館事業について

事務局：資料により平成 26 年度資料館事業の説明を行う。

議長：質疑または意見を求める。

委員：郷土資料館の企画展で災害を取り扱うのはおもしろい。企画書では明治以降の災害に限定して取り扱うようだが、その理由は何か。

事務局：北杜市郷土資料館は近現代を中心に扱う資料館として活動している。今回の企画展では、比較的時代が近く、強く記憶に残るものを中心にしている。ただし、明治以前からも繰り返し災害が発生しており、区分できるものではないため、近世以前の災害については年表・文書・絵図で取り上げる予定でいる。

委員：河川を中心にした水害に目が行きがちだが、寺所で元禄時代の災害があるように、北杜市では明治以前から山津波の被害を受けている。発掘調査により、忘れ去られた災害が判明している事例もあるので、北杜市にもそのような事例がないか、関心をもって足下や山をみてほしいと思った。理由や館の活動については理解した。時勢を捉えたよい企画である。

委員：説明中にあった武川町での保全活動に関心がある。その内容をききたい。

原谷戸も災害にあっており、現在は砂防ダムのおかげで被害がでていないといわれるが、砂防ダムも埋もれてきたという。地元でも現地を視察する予定でいる。太陽光発電等の開発による土砂災害の問題もある。現在どんな保全活動をしているのか知りたい。

事務局：現段階で把握しているのは、釜無川方面の保全活動である。市と民間企業が主体の活動と、商工会が主体の活動があり、草や木の伐採、障害物の除去を行っている。他の地域の活動があれば教えていただきたい。

砂防事業については、山梨県に資料提供を依頼しており、企画展に反映したいと考えている。

委員：明治以前の災害も取り上げた方がいいという意見に賛成である。小荒間に古い災

害の記録がある。小泉小学校の児童が祖父から聞き取りを行い、県の郷土学習のコンクールで大賞を受賞したこともある。

事務局：資料館所蔵資料でも古い小荒間の災害が確認できる。明治以前の災害についても、年表には反映させて展示する。

委員：時代を遡って取り扱うという意見もあったが、この企画展では八ヶ岳、甲斐駒等広い地域を取り上げている。時代、地域、生活の中の災害など、どこかに焦点を決めなくてはきりがなく、災害が漏れていると不満に思われてしまう。

事務局：今回の企画展は市制施行10周年の事業にあたるため、市域全体を見渡したい。子どもたちや、転入してきた方は、この30年程度の間は大きな災害がなく、北杜市は安全な地域であると思っている。災害の歴史があることを知り、今後、自分の身を守るために何をしたらいいのか、それぞれの目線で考えていただく契機となる展示を考えている。明治以前の災害を踏まえる必要はあるが、今後の行動に結びつけることに焦点をあてて、資料を検討していきたい。

議長：小荒間に、災害がおこるのは小荒間の荒の字があるからだといひ、荒の字を取りたいと申し出た古文書があるので取り上げてほしい。他に質疑または意見はないか。なければ次の議題へ。

### (3) その他について

事務局：資料により、郷土資料館常設展示変更、浅川伯教・巧兄弟資料館ほくと先人展示室及び消費税の税率引き上げに伴う資料館使用料の改正について説明を行う。前回の協議会において、資料館が所蔵する書籍を一般に貸し出してほしいとの御意見をいただいていた。検討の結果、これらの書籍は貸出しを前提に購入してはならず、また、貸出により急な調査に対応できないという事態が考えられるため、貸出しは行わないこととする。図書館がなく、資料館にある資料については、希望者に資料館館内での閲覧により対応する。遺跡の発掘調査報告書は、インターネット上で閲覧ができるため、そちらも案内していく。

議長：質疑または意見を求める。

委員：事務局の説明に補足する。山梨県教育委員会と信州大学図書館が協力して、信州大学図書館HP内に山梨県遺跡資料リポトジを開設し、掲載量は全国屈指。遺跡関係の資料がみたい場合は活用してほしい。

また、常設展示案にある立体模型は、費用上困難ではないか。衛星写真を印刷して床面に貼りつける方法も検討してほしい。

委員：先人展リスト中の窪田精は取扱いが難しく、このような場では取り上げられなかった人物。常設展で取り上げることができれば、おどろくべきこと。

議 長：他に質疑または意見はないか。なければ次の議題へ。

#### 5. その他

委 員：旧町村で保管していた古文書などのコピーは、郷土資料館に一括して保管されているのか。いままで地元で利用していた方から、どこに問い合わせればいいのか質問をうけた。

事務局：全部ではないが、支所の取り壊しなどにあわせて、郷土資料館に移動している。現在は、明野、高根の一部、白州などが資料館に移動している。郷土資料館にお問い合わせいただきたい。すぐに対応できない場合もあるが、調査のうえ対応する。

委 員：古文書に限らず、郷土に関する質問をしたい場合の窓口が市民には分からないので、市民にPRしてほしい。

事務局：今後、資料館等の業務内容の周知をおこなっていきたい。

議 長：他に質疑または意見はないか。なければ閉会とする。

#### 7. 閉会

白倉一由副会長が閉会を告げる。

(午後 2 時 50 分終了)

会 長 仲山 甲一  
署名委員 中沢市夫  
          小池 勝  
書 記 堀内